



ほうじょう さとし
北條 聡 議員

一般質問の動画はQRコードからご覧いただけます。



日詰駅と古館駅のトイレ利用

利便性を第一に

答 最善を模索していく

問

令和6年3月のダイヤ改正に伴い、日詰駅と古館駅が無人駅となった。これによりトイレが閉鎖され、利用者の利便性を欠いているのが現状だ。車両にトイレは備え付けられているが、気象状況や車両の故障などで運行に遅延が発生する場合もあり、利用者の急激な体調変化や長時間待たされることでトイレを利用したくてもできない状況が生まれる。交通結節点としてや魅力向上のために、町で施設を借り受けるなどで、公衆トイレとして整備できないか。

町長

駅の無人化は、JR東日本によって経営の効率化、限られた人的資源でのサービス提供を図るため実施されたものである。町民からも心配の声が寄せられ、町による借り上げや公衆トイレ設置ができないかという意見がある。



よしだ かずき
吉田 和希 議員

一般質問の動画はQRコードからご覧いただけます。



郷土の歴史教育

伝承を後世に

答 さまざまな手法で保存・継承を

問

小学校では必修科目だけでなく地域それぞれ、地元の歴史を学ぶ機会、発表する機会がある。町内にも、数多くの歴史保存会や歴史を伝承している団体があり、多くの歴史文化を後世に伝えるべく活動されている。

それを受け、学校や町が地域独自の学びを与えるための伝承活動にどのように関わっていくのか。また、統廃合や学習指導要領の変遷を受けて、郷土の歴史教育をどのように扱っていくのか。

教育長

郷土に関する学習は、義務教育9年間の中でも郷土に関する学習時間を最も多く位置づけている。各小学校では、当教育委員会発行の社会科学副読本「わたしたちの紫波町」を主教材として授業している。総合的な学習の時間に



あべ ひでかず
阿部 秀一 議員

一般質問の動画はQRコードからご覧いただけます。



公共施設の老朽化

最適な公共施設整備を

答 長期的な視点で判断

問

老朽化した施設の維持管理に更新費用が増える想定される。少子高齢化、人口減少により公共施設の利用状況が変化すると捉えるが長期的な整備構想は。

町長

現在、赤石小学校の増築、学校給食センター、消防屯所の更新などを予定している。町の公共施設の約40%は老朽化の対応が必要であり、今後の在り方を長期的な視点で判断していく。

問

総合体育館、野球場は長寿命化を図り維持しているが安全性に不安との声がある。現状と今後の対応は。

教育長

紫波運動公園内の各施設の安全性と機能維持は、指定管理者である一般社団法人紫波町体育協会と連携し改修、修繕をしている。令



公衆トイレは、維持管理や防犯面から現状設置する予定はないが、駅の閉鎖されたトイレについては町の相談に応じるとしているため、地区の方々と話し合いをしていきたい。

任意団体の人材育成、

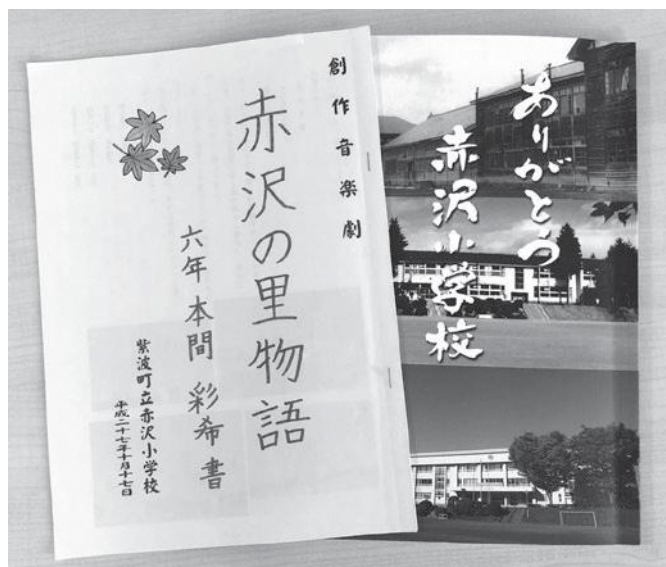
担い手確保に向けた取り組み

早急に手を打つべき

答 支援していく

問 行政区域長、民生委員、自治公民館役員などさまざまな団体や役職があるが、区長や役員交代の成り手がいないという声が町民から上がっている。少子高齢化が進む中で地域コミュニティを支えていく担い手の育成は急務だが、町は具体的な対策を講じているか。

町長 地域コミュニティを支える担い手は、それぞれが大切な役割を果たしていると認識している。町は令和3年度に「紫波町地域づくり指針」としてまとめ、6年度より地域コミュニティ支援アドバイザーを導入している。集落支援員や地域おこし協力隊の配置、中間支援団体への業務委託と合わせて、地区公民館と連携しながら伴走支援を行なっていく。



伝え残したいものがある

において、町史や史跡・神社仏閣に関する施設見学や探究的な調べ学習、郷土の歴史に密着した学習を、各小中学校が地域の特色を生かして展開している。町には、国・県・町の指定する文化財や天然記念物、郷土芸能など多くの歴史的資源が存在し、それらを後世に伝えるべく活動している団体も多くある。現在、各学校では郷土芸能の伝承活動は行っていないが、6つの学校区に設置している学校運営協議会の議論の中で、各地域の伝承活動の在り方について協議している。



総合体育館



座りにくい野球場の観客席

和4年度は野球場バックネット張替えなどの更新、5年度は、総合体育館の東側^{ひだり}底防水工事、大アリーナ暗幕交換をしている。今後も利用者の安全性を確保しつつ、施設機能が維持されるよう計画的に修繕などを実施していく。